

# 武石地域自治センター

## 平成30年度 重点目標

- 1 快適な地域拠点の整備と地域防災力の強化
- 2 住民主体の「住みよい」地域づくりの促進
- 3 魅力ある地域資源を生かした産業施策の推進

平成30年度 重点目標管理シート

重点目標	快適な地域拠点の整備と地域防災力の強化			部局名	武石地域自治センター	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第2編 安全・安心な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全安心に暮らせる環境の整備 第7節 地域防災力の向上と災害対応能力の強化			まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系 ④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(2) 支える財政基盤の改革 ウ 私有財産の適正な管理と利活用						
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武石地域自治センターと周辺に位置する武石公民館（コミュニティホールを除く）、武石老人福祉センター寿楽荘、武石健康センターは、老朽化が著しく耐震基準も満たしていないことから、公共施設マネジメント基本方針に則り、これら4施設（合計床面積4,589㎡）を現武石公民館敷地に集約し、住民自治の推進やコミュニティ活動の拠り所、防災拠点と兼ね備えた床面積2,636㎡の武石地域総合センターとして整備することとしています。</li> <li>・全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では予めから地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきました。武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取り組む自主防災組織の育成が必要です。</li> <li>・武石診療所は患者数の減少により収入も減少しており、経費の一部を武石診療所事業基金から繰入れにより維持している状況です。こうした状況の中、今後の職員配置計画や運営方針等検討が必要となっています。</li> </ul>						
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする「小さな拠点」の核となる武石地域総合センターを整備し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策まで含めた市民協働による開かれた地域づくりが推進できます。</li> <li>・施設の集約と規模の適正化により、利便性の向上と維持管理経費の縮減、行政効率の向上が図られます。さらに、環境に配慮した施設の構造と適正な設備機器の導入によりCO2排出量の削減も期待できます。</li> <li>・自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。</li> <li>・武石診療所は地域内唯一の医療機関であり、今後の運営方針等明確にし、職員の定年退職に伴う、今後の配置計画を行うことにより経営の効率化が図られ、在宅で安心して医療が受けられる体制作りが確立できます。</li> </ul>						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>○武石地域総合センター建設</li> <li>(1) 外構・造成の基本計画の策定</li> <li>(2) 地質調査・実施設計業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 8月</li> <li>(2) 年度末</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域協議会への報告</li> <li>(2) 業務完了</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 駐車場・にぎわい広場整備基本計画（案）は作成を完了し、8/22部長会議に報告したが、総合センター整備事業全体のスケジュールから変更があるため、実施計画の変更も必要と判断し、地域協議会への報告は保留している。</li> <li>(2) 4/20入札により4/25（株）久高設計と契約を締結し、ボーリング調査は終了し、実施設計の実施中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 駐車場・にぎわい広場整備基本計画を地域協議会及び市議会12月定例会に報告し承認された。</li> <li>(2) 地質調査・実施設計業務は計画どおり遂行された。</li> </ul>		
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自主防災組織の育成と防災訓練の実施</li> <li>(1) 自主防災組織リーダー研修会の実施</li> <li>(2) 防災訓練の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 6月</li> <li>(2) 9月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全自治会対象 ・出席者80人以上 （昨年度出席者の5%増）</li> <li>(2) 全自治会対象 ・訓練への参加者600人以上 （昨年度参加者581名）</li> <li>・情報伝達訓練への参加世帯100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全18自治会の参加により実施した。 ・出席者は90人と、目標を大きく上回り達成した。 （昨年度比18%増）</li> <li>(2) 全18自治会の参加により実施した。 ・訓練への参加者683人（昨年度比18%増）</li> <li>・情報伝達訓練への参加率は93.4%</li> <li>目標達成には至らなかったが、地域内に伝達方法等の認識は根付いてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 全18自治会の参加により実施した。 ・出席者は90人と、目標を大きく上回り達成した。 （昨年度比18%増）</li> <li>(2) 全18自治会の参加により実施した。 ・訓練への参加者683人（昨年度比18%増）</li> <li>・情報伝達訓練への参加率は93.4% 目標達成には至らなかったが、地域内に伝達方法等の認識は根付いてきた。</li> </ul>		
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>○武石診療所の運営方針等の明確化及び適正な職員配置の検討</li> <li>(1) 診療所の課題整理及び内部検討会の実施</li> <li>(2) 診療所のPR等情報発信</li> <li>(3) 地域内団体代表者との意見交換会実施</li> <li>(4) 診療所事業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 年度内</li> <li>(2) 年度内</li> <li>(3) 年度内</li> <li>(4) 年度内</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 年6回</li> <li>(2) 自治センターだより、SNSによる情報提供</li> <li>(3) 年1回</li> <li>(4) 関係課と連携の上実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部検討会（毎月第1火曜日に開催：6回）</li> <li>(2) 自治センターだより「武石診療所通信」（5/16号、7/16号、9/16号に掲載）</li> <li>(3) 未実施（H31.1～2月予定）</li> <li>(4) (1)及び(3)を踏まえて事業の充実を図る（年度内）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 内部検討会（毎月第1火曜日、開催：8回）</li> <li>(2) ・自治センターだより「武石診療所通信」年6回（5/16号、7/16号、9/16号、11/16号、1/16号、3/16号に掲載） ・エリアトーク、メール配信等による広報（随時）</li> <li>・各種イベントにおける地域住民の健康増進事業参加</li> <li>(3) 武石地域協議会（H30.12.19）、診療所あり方検討会（H31.2.13）における意見交換会を2回開催</li> <li>(4) 予防接種事業の夜間・休日開催により、患者サービス向上が図られ、利用者増となった。 ・インフルエンザ予防接種の夜間（期間中の火・木）、休日（12/2）実施</li> <li>・入園・就学前子ども予防接種の休日（3/3）実施（子育て世代に配慮した）</li> </ul>		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武石地域総合センター整備では、自治センター便り（地域内広報紙）等を通じ地域住民へ情報を公開し、地域住民満足度の高い施設となるよう計画していきます。</li> <li>・自主防災組織リーダー研修会は、自治会、民生児童委員会、女性消防隊の主催とし、より多くの住民が自主的に参加できるよう計画します。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治センターだより・エリアトーク等により総合センターの整備や公民館の移転について十分な周知が図られました。</li> <li>・来年度に向けて、防災訓練における情報伝達訓練への参加ができなかった者（安否確認不能者）の安否確認方法等、事後のフォローアップを行うことにより、さらに地域の防災力が高まります。</li> <li>・診療所の運営については、住民に情報を提供し意見・要望等を聞きながら、運営方針、課題等を整理することで、住民の要望に合ったサービスの提供が図られました。</li> <li>・武石診療所業務では、各種予防接種の日時を工夫することで子育て世代などが利用しやすいよう配慮し、患者サービスの充実が図られました。</li> </ul>			



重点目標	住民主体の「住みよい」地域づくりの促進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第1編 市民が主役のまちづくり 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第1節 参加と協働による自治の推進 第2節 地域内分権による地域の自治の推進		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 3 訪れたい・住みたいという戦略 施策体系 ③ 移住・地域居住を促進する施策の推進 戦略 4 ひと・地域の輝き戦略 施策体系 ④ 地域主体のまちづくりを進める地域内分権推進		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 ア 移住・定住・交流人口を増やす体制の確立 (3) 市民満足度を向上させる人・組織の改革 カ 地域内分権による地域の自治の推進					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成29年3月30日に設立した住民自治組織「住みよい武石をつくる会」は、6つの部会ごとに事業計画の策定を行い、この計画により情報伝達システムの実施をはじめとした様々な事業に取り組んでいます。119名の会員には交代もあることから、住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。</li> <li>武石地域は市内でも少子高齢化が顕著であり、人口の減少、空き家の増加が進んでいます。</li> <li>現在1名の地域おこし協力隊員がSNSを活用し観光誘客活動を行い成果を上げていますが、さらに地域の活性化を促す取り組みが求められます。</li> <li>平成22年度に自治連と地域協議会の協働で定めた武石地域全域公園化構想に基づき、平成23年度から樹木破砕機、平成28年度から乗用草刈機、平成29年度から畦草刈機の貸出を実施し、獣害対策、花木苗支給等を自治会を中心に事業を推進していますが、より構想を明確にするため、住民自治組織・地域協議会などによる、新たな取組を模索する必要があります。</li> <li>余里花桃の里運営は、武石地域の地区における代表的な取組であり、公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。</li> </ul>					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治基本条例の基本理念を踏まえ、地域住民が自ら参加し地域内の課題を解決できる住民自治組織「住みよい武石をつくる会」を支援し、地域住民と行政の協働による地域自治を推進し地域が健康で元気なまちを創りあげることにより「健（康）幸（福）都市」の実現を目指します。</li> <li>公園化構想は、自治会等の活動やその成果の「見える化」を図ることにより、より積極的に地域住民が参加できる活動とするとともに、自らの地域を自らの手で美しくする活動を通して、地域への誇りや地域コミュニティの活性化を図ります。</li> <li>余里花桃の里運営は、引き続き運営支援することにより、公園化構想の推進が図られます。</li> <li>移住・定住推進活動を主目的とする地域おこし協力隊員の増員と現隊員の活動を支援することにより、UJIターンを希望する都市生活者へ地域内の空き家を活用した移住・定住の情報提供ができる仕組みが生まれます。</li> </ul>					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① ○「住みよい武石をつくる会」の運営基盤づくりを支援 (1) 武石地域まちづくり計画策定の支援 (2) 先進地事例と出前講座の情報提供	(1) 年度末 (2) 年度末	(1) 定例部会に出席し各部会の運営および計画の策定を支援する (2) 出前講座を2回以上開催	(1) 運営委員会への出席により必要に応じて支援を行った。引き続き計画の策定に向けて支援する。 (2) 現時点での出前講座の要請はないが、今後も勉強会の開催など出前講座を斡旋していく。	(1) 年間7回の運営委員会へ出席し必要に応じて支援を行い、「住みよい武石をつくる会」により、まちづくり計画（案）が作成できた。 (2) 出前講座の要請はなかったが、先進地等の情報提供や、各部会への資料提供を行った。		
② ○武石地域全域公園化構想関連事業の推進 (1) 自治会等が計画する「わがまち魅力アップ応援事業」の周知と支援 (2) 花木苗等支給事業、貸出事業制度説明会の開催 (3) 花木苗等支給事業 (4) 貸出事業 ア 樹木破砕機貸出事業 イ 乗用草刈機貸出事業 ウ 畦草刈機貸出事業 (5) 余里一里花桃の里運営支援事業 ア 仮設トイレ設置 イ シャトルバス運行支援 ウ チラシ作成・配布 エ ノルデックウォーキング運営支援	(1) 年度末 (2) 11月、1月 (3) 5～6月 (4) ア 年度内 イ 年度内 ウ 年度内 (5) ア 4月～5月 イ 4月中旬～5月上旬 ウ 3月～4月 エ 4月29日	(1) 新規実施団体1件以上 (2) 自治会長会 2回 (3) 3自治会等へ花木苗等1,000本配布 (4) ア 自治会等へ延べ 8回 イ 自治会等へ延べ10回 ウ 自治会等へ延べ10回 (5) ア 一万歩駐車場・上余里 イ 9時～15時（職員添乗） 一万歩駐車場 ⇄ 上余里 ウ 5,000枚 エ 武石観光協会の運営支援	(1) 新規実施団体が1件あったが、準備が整わず断念されたので、この団体については引き続き支援を行うとともに、さらに地域内での周知に努める。 (2) 11月は現自治会長、1月は新自治会長に事業の説明予定 (3) 配布先： 沖自治会、沖育成会、七ヶ自治会 配布数： 220本 (4) ア 自治会等へ延べ貸出回数 6回 イ 自治会等へ延べ貸出回数 5回 ウ 自治会等へ延べ貸出回数 0回 (5) ア 設置期間：4月13日～5月1日種別：一般用4台、身障用1台 イ 実施期間：4月21日、22日、28日、29日の4日間 延乗者数：793人 ウ 実施期間：4月16日～4月29日 5,000枚配布 エ 開催日：4月29日 参加者数：32人	(1) 新規活動団体の応募が1件あり、地域協議会の審査において採択された。 (2) 2回の自治会長会において、新旧自治会長に対して制度の説明をし、利用の推進を図った結果、貸出は(4)の実績となった。 (3) 花木苗より花木苗の要望が多かったため数値目標の配布数には達しなかったが、3自治会等へ220本の花木苗等を支給し、植樹により景観整備が図られた。 (4) 自治会等への貸出により、遊休荒廃地等での景観整備が図られた。貸出実績は次のとおり。 ア 樹木破砕機 自治会等へ延べ貸出回数13回 イ 乗用草刈機 自治会等へ延べ貸出回数 8回 ウ 畦草刈機 貸出申請はなかった。 (5) 地域推進団体等と協働によるおもてなし、観光PR等により誘客による地域の活性化が図られた。 ・主な取組実績は次のとおり。 ア トイレ設置：4月13日～5月1日 トイレ種別：一般用4台、身体障害者用1台 イ バス運行日：4月21日、22日、28日、29日4日間 延乗者数：793人 ウ チラシ配布：4月16日～29日5,000枚配布 エ イベント日：4月29日 参加者数：32人		
③ ○地域おこし協力隊の活動支援と移住定住の推進 (1) 隊員の補充 (2) 自治会・住民自治組織との連携	(1) 10月までに (2) 通年	(1) 補充1人 ・事業活動の支援を通じ空き家情報提供の仕組みを作る ・契約満了までに隊員の定住を図るための準備を支援する	(1) 1人の応募あったが面接の直前でキャンセルとなったことから引き続き補充に向けた準備を進める。 また、現協力隊員（1人）の定住意思が確認できたので空き家情報も含めた定住支援を継続する。 (2) 住民自治組織の各部会で行う事業にも隊員が参加し、交流を深めている。	(1) 今年度3度目の募集により平成31年度4月から着任する隊員が決定した。また、現協力隊員の起業による定住意思が確認できたことから、定住後の住居や仕事の相談等支援を行った。 (2) 住民自治組織の各部会で行う事業にも隊員が参加し、交流を深めている。		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点  ・地域内分権の確立に向け、住民自治組織「住みよい武石をつくる会」が主体的に取組む活動を支援していきます。 ・移住、定住促進のため、地域おこし協力隊員と自治会、住民自治組織の連携を支援し、空き家の提供に向けた地域住民の協力を得るための空き家情報提供の仕組みを構築します。		○取組による効果・残された課題  ・来年度は住民自治組織「住みよい武石をつくる会」会員の入替も予定されていることから、引き続き運営に対する支援が必要と考えられます。 ・起業による定住を希望している任期満了となる協力隊員に対して、起業支援事業補助金や住宅情報など、任期満了まで定住支援を継続します。 ・武石地域全域公園化構想関連事業の推進については、平成22年度以降に推進してきた各種事業の検証が必要です。 ・余里一里花桃の里運営支援は、武石地域全域公園化構想の推進に重要な取組のため、引き続き、地元推進団体等との協働による取組が必要です。			



重点目標	魅力ある地域資源を生かした産業施策の推進		部局名	武石地域自治センター	優先順位	3位
総合計画における 位置付け	第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 1 上田で働きたい戦略 施策体系 ④農林業の稼ぐ力の創出  戦略 3 訪れたい・住みたいいうえだ戦略 施策体系 ①地域資源を生かした知名度アップと交流促進			
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 住みたい住み続けたいと思うまちづくりへの改革 ウ 広域連携の推進 (2) 支える財政基盤の改革 ウ 市有財産の適切な管理と利活用					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境や温泉施設、歴史的建造物など、武石地域特有の地域資源を活用することによって、武石地域におけるファンを増やし、観光客等の利用者増を図ることが必要ですが、観光施設等については、全般的に老朽化が進んでいることから、魅力ある観光資源として発信していくために、安全対策及び景観上、計画的な整備が必要であり、観光施設等のあり方について検討する必要があります。</li> <li>・観光客誘致に向け魅力ある観光地を集結し、広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールすることが必要です。</li> <li>・練馬区との友好提携により共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深めるため、交流イベント等に参加することが重要です。</li> <li>・農業基盤施設の老朽化により、県営中山間総合整備事業等を活用した計画的な改修が必要です。</li> <li>・農地の維持、資源向上のため、多面的機能支払交付金事業を推進する必要があります。</li> </ul>					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力ある観光資源として発信していくため、観光施設についての整備を計画的に実施し、誘客を図るとともに、観光施設等のあり方について検討します。</li> <li>・練馬区との友好提携により共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深めるため、練馬区との交流イベント等を積極的にに行い、上田市のPR及び地元農産物のPRと販路拡大を図ります。</li> <li>・美ヶ原高原及びびーナスラインの自然をテーマとして広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールし、効果的に観光客誘致を図ります。</li> <li>・県営中山間総合整備事業（美の郷地区）の事業を計画的に推進します。</li> <li>・農地の維持、資源向上のため、多面的機能支払交付金事業を推進します。</li> </ul>					
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① ○観光施設等の管理、運営 (1) 岳の湯温泉雲溪荘の廃止又は民間等への譲渡を含めた検討 ア 庁内検討会の開催 イ 市政経営会議での決定 ウ 地域協議会への意見聴取及び諮問等 (2) 武石番所ヶ原スキー場、武石温泉うつくしの湯、巢栗溪谷緑の広場等のあり方の検討 ア 庁内検討会の開催	(1) ア 5月～3月 イ～10月 ウ～2月  (2) ア 5月～3月	(1) ア 4回以上 イ 1回以上 ウ 2回以上  (2) ア 4回以上	(1) ア 7月9日 イ 未定 ウ 8月22日、9月19日 追加検討：9月10日（指定管理者との意見交換会）  (2) ア 7月9日 あり方検討会 追加検討：8月25日 職員実証実験イベント 7月11日 職員アンケート調査 9月6日 有識者と実地確認及び意見交換	(1) 雲溪荘の当面の管理、運営方針について「当面、施設を存続する」決定を行った。 ア 5回にわたり、庁内検討会を行った。 イ 協議の結果、市政経営会議の案件外とした。 ウ 地域協議会からの存続の意見書に対し「当面、施設を存続する」回答を行った。 ・上のアイウに加え、指定管理者、関係団体との意見交換会を4回行った。 (2) 施設の適正な管理・運営、誘客による地域活性化に向けての課題等の情報提供をし、今後も継続して検討していくことを確認した。 ア 2回にわたり、庁内検討会を行った。 ・上のアに加え、職員実証実験のイベント、職員アンケート調査、有識者と実地確認及び意見交換を行った。		
② ○友好提携都市との交流及び広域関係自治体との連携 (1) 練馬区との交流 ア 照姫まつり イ 練馬まつり (2) 美ヶ原高原広域連携 美ヶ原観光連盟へ参画 (3) ビーナライン沿線広域連携 信州ビーナスライン連携協議会へ参画	(1) ア 4月22日 イ 10月21日 (2) 年度内 (3) 年度内	(1) ア PR活動、物産展出展 イ PR活動、物産展出展 (2) 事業計画の推進及び連携 (3) 事業計画の推進及び連携	(1) ア 4月22日 イ 10月21日予定 (2) 4月12日総会、その他事業推進 (3) 5月7日総会、その他事業推進	(1) 物産の販売、観光PR、雲溪荘PRを実施し、誘客による地域の活性化が図られた。 ア 4月22日参加した。 イ 10月21日参加した。 (2) 広域的な市民参画イベント、観光PR、自然再生事業を実施し、景観整備及び誘客による地域活性化が図られた。 (3) 協議会のホームページの更新、観光冊子の配布等広域的な観光PRを実施し、誘客による地域活性化が図られた。		
③ ○県営中山間総合整備事業（美の郷地区）の推進（H29～H34） (1) 調整及び合意、協議、説明会及び同意 ア 今年度実施個所の地元調整及び合意 イ 計画策定に伴う設計協議 ウ 事業計画に伴う関係者説明会及び同意	(1) ア 5月～6月 イ 9月～11月 ウ 12月～2月	(1) ア 地元調整及び合意 イ 設計協議完了 ウ 説明会の開催及び同意	(1) ア 5月16日 実施についての役員同意（築地原堰・浦二本木） イ 県委託業者決定が遅れたため、10月からの着手に合わせ実施予定 ウ 県発注設計業務の進捗に合わせ説明会を実施予定	(1) 平成29年度から平成34年度までの継続事業であるが計画的な事業の推進が図られた。 ア 5月16日、実施についての役員の同意を得た。（築地原堰・浦二本木） イ 3月中旬、地元役員との設計協議を行った。 ウ 今後、県発注設計業務の進捗に合わせ説明会等を実施する。		
④ ○多面的機能支払交付金事業の推進 (1) 推進のための制度周知等の説明会の開催、組織の設立支援 ア 設立希望組織 イ 自治会長会 ウ 未加入自治会等 (2) 活動組織への指導、助言	(1) ア 5月～8月 イ 11月、1月 ウ 5月～3月  (2) 年度内	(1) ア 2組織 イ 2回 ウ 4回  (2) 随時 下小寺尾水士里会	(1) ア 上田市多面的機能広域協定参画（3組織）（沖自治会有志の会、下本入自治会、余里水士里会） イ 11月、1月に説明予定 ウ 7月1日 上武石区を対象に実施 (2) 随時実施予定	(1) 上田市多面的機能広域協定に3組織が新たに参画し、農地の維持、地域資源の質的向上、施設の長寿命化の確保が図られた。 ア 3組織に対し、制度の周知と設立支援を行った。 イ 2回にわたり、制度の周知を行った。 ウ 3団体に対し各1回、制度の周知を行った。 (2) 1組織に対し、円滑な運営のための支援を行った。		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設の管理、運営については、市の方針を地域協議会等の意見聴取及び諮問等を行います。</li> <li>・広域関係自治体との連携については、住民参加事業において、広く市民等に呼びかけます。</li> <li>・県営中山間総合整備事業の推進については、地元との連携を図ります。</li> <li>・多面的機能支払交付金事業の推進については、地域団体等と協働で農地の維持、資源向上に努めます。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設等の管理、運営については、雲溪荘の管理、運営方針を「当面、施設を存続する」決定を行いました。公共施設については、今後も公共施設マネジメントの取組が必要です。</li> <li>・友好都市との交流については、練馬区と共に育んできた文化、教育、産業等の交流をさらに深め、関係人口の増加による地域の活性化を図る必要があります。</li> <li>・広域関係自治体との連携については、誘客に向けて魅力ある観光地を集結し、広域的に関係自治体が連携することで、それぞれの観光資源を点ではなく面でアピールする取組が必要です。</li> <li>・県営中山間総合整備事業の推進については、農業基盤施設の老朽化に伴い、今後も計画的な改修が必要です。</li> <li>・多面的機能支払交付金事業の推進については、上田市多面的機能広域協定に3組織が新たに参画しました。今後、地域団体と協働により農地の維持、地域資源の質的向上、施設の長寿命化の確保を図っていくことが必要です。</li> </ul>			